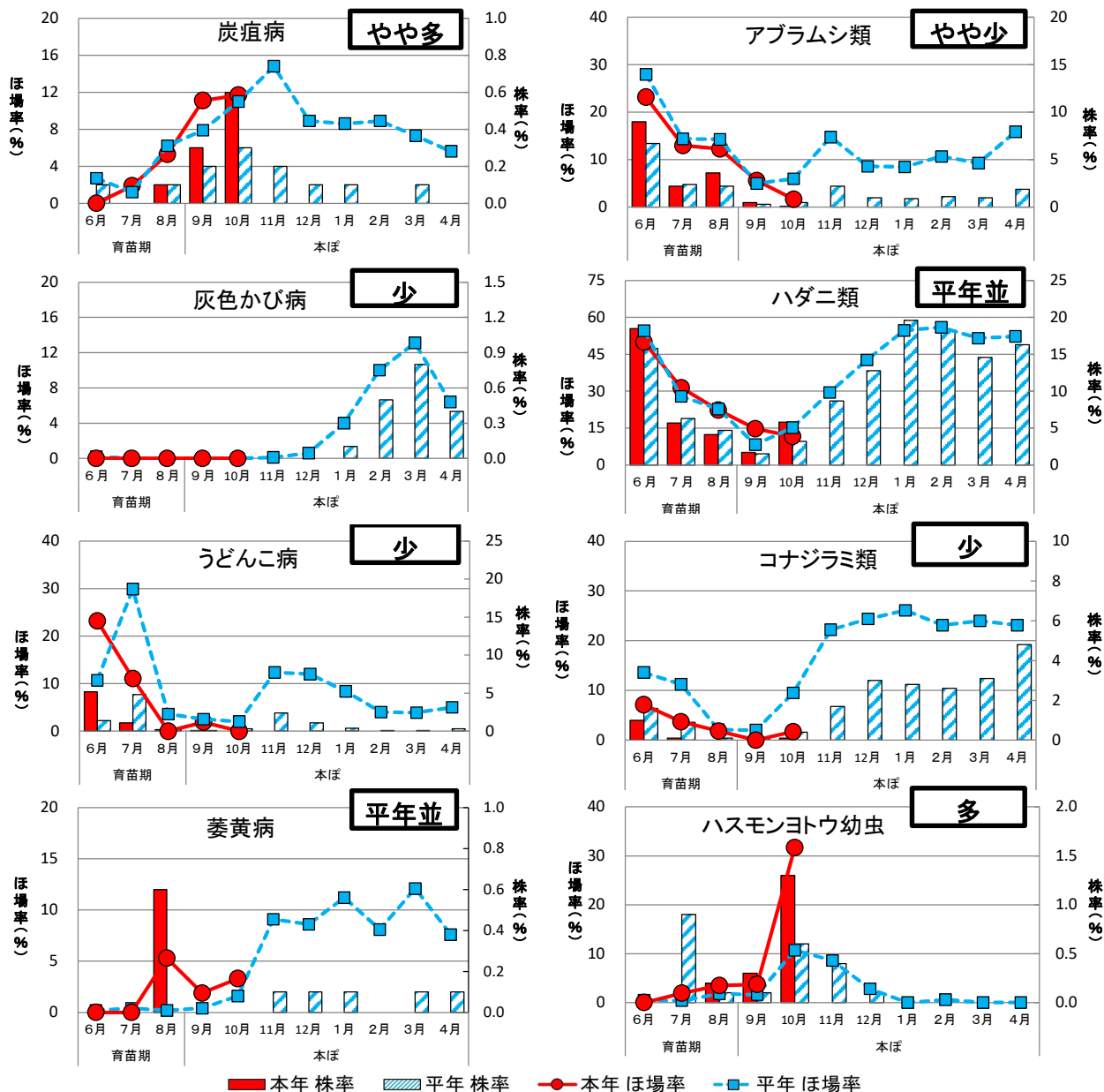


# いちご病害虫情報第5号（10月）

令和7（2025）年10月17日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：63 か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

## ■ 今月の防除ポイント

### ー アザミウマ類の防除対策 ー

野外のアザミウマ類は、11月頃まで活発に活動します。10月中旬までに開花が進んだほ場では、野外からのアザミウマ類の侵入が多くなる傾向があります。冬季の発生は、ハウス内に残存した個体に由来するため、ほ場をよく観察し、適切な防除を行いましょう。

- 1 ハウス内外の除草を行い、ハウス内に不要な植物を置かない。
- 2 花をよく観察し、1割以上にアザミウマ類が確認された場合は、薬剤防除を実施する。なお、薬剤はミツバチ等の花粉媒介昆虫や天敵への影響日数に注意してする。
- 3 薬剤感受性の低下を防ぐために、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

## ■ 今月のトピックス ハダニ類

ハダニ類（写真1）は、県内の促成栽培いちごにおいて、親株から栽培終了時まで周年で発生し、多発すると株の生育不良や果実の品質低下などの被害が生じます。

ハダニ類は化学農薬に対する感受性が低下しやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布することが重要です。

天敵製剤（写真2）や気門封鎖剤は、薬剤感受性が低下したハダニ類にも有効であり、化学農薬の散布回数を大幅に減らすことができるため、積極的に活用しましょう。

### 天敵製剤(カブリダニ類)の使用にあたって

- 天敵製剤はハダニ類の発生前から発生初期に放飼すること。
- ハダニ類の発生が多い場合は、放飼前に気門封鎖剤や天敵に影響の少ない薬剤を使用し、ハダニ類の密度を下げる。
- 放飼後はハウス内をこまめに見回り、天敵が定着・増殖していることを確認する。

### 気門封鎖剤(物理的防除剤)の使用にあたって

- 気門封鎖剤は、ハダニ類に直接かからなければ効果が得られないため、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布する。
- 多くの気門封鎖剤には殺卵効果が無いため、卵から孵化した幼虫・成虫に対して5～7日程度の間隔で複数回散布する必要がある。



写真1 ナミハダニ雌成虫(いちごでの主要種)  
(被害葉はカスリ状の斑点がみられる)



写真2 チリカブリダニ成虫(ハダニ類の天敵)  
(光沢のあるしずく形：約0.5mm)

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課  
(Tel 028-665-1244) までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX「栃木県農政部  
([@tochigi\\_nousei">@tochigi\\_nousei](https://twitter.com/tochigi_nousei))」、農業総合研究センターホームページ  
(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)でも  
ご覧になれます。

